

科学技術×アートの融合

科学者も芸術家も
根源は同じ

香川大学と東京藝術大学の連携プロジェクトの拠点施設 「芸術未来研究場せとうち」が完成

この度、香川大学と東京藝術大学の連携プロジェクトの拠点施設「芸術未来研究場せとうち」が高松市庵治町に完成し、令和6年8月9日（金）に開所式を行いました。

科学技術×アートの融合

『アートと科学技術による「心の豊かさ」を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開』を目的に、東京藝術大学との連携プロジェクトを始動させる本学。海ごみや漁場再生などの海洋問題の解決に向けて、香川大が得意とする科学的アプローチで得られた研究成果を、東京藝大の得意分野である可視化する表現力を使って国内外に発信していくことを目指します。この連携事業が文部科学省などの助成事業に採択され、3億7800万円でこの拠点施設を整備しました。

当施設は鉄骨3階建て延床面積514平方メートル、目の前には小豆島が臨め、見渡す限り海が広がるロケーションに位置しています。たくさんの人が集い、革新的な技術が生まれる『場』にしたいという想いから、研究所ではなく「芸術未来研究場せとうち」と命名しました。

※地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）：
日本全体の研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくために、大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援と並行して行う事業のこと

科学者も芸術家も根源は同じ

開所式には関係者ら約80名が出席。上田夏生・香川大学長は「瀬戸内エリアの地理・文化などの特性を生かし、課題解決への革新的な技術を創出し、国内外に発信したい」と今後の意気込みを述べました。また、池田豊人・香川県知事からの祝辞では、「J-PEAKS*におけるアートの力と科学技術のかけあわせにより、豊かな瀬戸内海環境を守る新たな答えが見つかるのではないか」との期待が寄せられました。

竣工を祝したテープカットのあと、「芸術未来研究場せとうちからはじまる『科学×アート』を語る」と題して、ミニトークセッションを行いました。そこで日比野克彦・東京藝術大学長から、「一見相反するように見える科学者と芸術家だが、見えないものを可視化するというアートの根源と、知らないものを科学技術によって数値化することは通じる部分がある。その特性を活かし、科学とアートというエネルギーの融合によって、人々の心を動かし、行動変容を促す取り組みを、ここで行っていきたい」と語られました。香川大学は「芸術未来研究場せとうち」を新たな拠点に据え、科学技術×アートの融合により、波のない瀬戸内にイノベーションの波を起こしてまいります。

「芸術未来研究場せとうち」を拠点に、アーティストが中高生・香川大学生らとつくりあげる「ひとと海」展を開催



2024年度「瀬戸内海分校プロジェクト」
修了証書授与式

リサーチ・企画編

（調査・研究・立案）

2024年8月5日～9日

制作編

（アーティストと共に作品制作）

2024年8月～9月

展覧会

（「芸術未来研究場せとうち」での展示）

2024年10月5日～11月10日



ミニトークセッション



開所式テープカットの様子



香川大学の調査船カラヌスIII

